弟子たちの訓練

会期 7: 服従(4a)

ロン・ライブリー、M.Div.、M.A.による提供 – BiblicalMentoring.org(学問)

ステップ1:開会の祈り

ステップ2: 各人が記憶の節を引用します: ヴァース: **ヨハネ14:15**
15 もし私を愛しているなら、私の戒めを守る。

ステップ3: *聖書章の全部または一部を読んで議論してください – **ヨハネによる福音書14章***

***ステップ4**:* 個人申請やグループディスカッションのための質問:

一. なぜ著者は弟子の四つの特徴のうち最初のものとして従順を選んだと思いますか?

二. なぜ弟子たちがイエスに従うよう求められたときに示した即時行動を見ることが重要なのでしょうか?

三. 恐怖の動機と愛の動機の違いを考えてみてください。あなたは恐怖に突き動かされるのか、それとも愛に突き動かされるのか?

四. 神の言葉の学習は、神の御心や期待を明確にする助けになりますか?

五. 重要な決断を下さなければならなかった指針は見つかりましたか?

***ステップ5**:本の内容を読んで議論してください:*

著者による第4章a(キース・フィリップス):

従順は弟子の第一の特徴です。私たちは神に従うのは、神が宇宙の主権者であり、その言葉にできない慈悲に対する唯一の受け入れられる反応であるからです(ローマ人への手紙2:4)。

イエスは言われました。「もしあなたがわたしを愛するなら、わたしの戒めを守るであろう」(ヨハネ14:15)。神の言葉に従う者だけが、神への愛を示します。あなたのキリストへの愛が、悔い改めて従うよう命じる理由となりました。あなたの洗礼は、自己死とキリストがあなたの人生の主として即位することを明確に示し、従順のさらなる一歩でした(ローマ6:3,4)。そしてキリスト教徒の生活は、従順の巡礼が続くものです。

数年前、私はある軍事基地を訪れました。兵士たちが軍曹に対して示した従順さに感銘を受けました。彼が逃げろと言うと、彼らは走りました。トイレ掃除を命じられても、彼らはこすりました。議論もためらいもなく、ただ即座に行動しました。

兵士たちは軍曹に従った。なぜなら軍曹は中尉に従い、中尉は指揮系統を通じて将軍に従ったからである。もし兵士たちが軍曹に従わなければ、将軍の権威に逆らい、厳しい処罰を受けることになる。彼らの継続的な健康は、その服従にかかっていた。

軍隊では服従の動機はしばしば恐怖であり、キリスト教徒の動機は愛であることに気づきました。それでも、軍の例は信者にとって重要な原則を示しています。すなわち、私たちの福祉は服従の直接的な結果であるということです。

私たちは聖書の知識と委ねられた意志を通じて、一貫して神に従う力を得ています。

神の言葉を知っていなければならない

「神の言葉を聞き、従う者は幸いである...」(ルカ11:28 NIV)。神の御心を知らずに神に従うことができると信じるのは大胆なことです。

自分の望むことを子どもに伝えないなら、それをしないからといって罰するのは不公平です。しかし、神は理不尽ではありません。神は御言葉を通して私たちの御心を明確に示してくださいます。だからこそ、私たちは聖書を学び、それが私たちを義に鍛え、神に喜ばれる生き方を教えてくれることを理解しなければなりません(テモテへの第二3:16)。

聖書は確かに神の御心を明らかにしています。しかし、多くの人が知っているように、聖書研究は大変な作業です。その真理を得るためには、ただのんびりと読み進めるのではなく、熱心に言葉を学ばなければなりません。多くのクリスチャンは聖書に無知なままで、神の言葉を学ぶのが怠惰で、霊的な糧や動機、祝福を自ら奪っています。

数年前、私は太り気味で体型が悪いと確信するようになりました。そこで、神様と家族の前で毎日走ると誓いました。ジョギングが健康を良くすると知っていました。最初は。それは純粋な苦しみでした。走りたいと思う日はほとんどありませんでした。寒くて湿った朝を一日だけでも避けるべき理由が無数にありました。しかし意志で、その約束を守りました。

それから体重が減り、体調も良くなりました。そしてランニングも楽になりました。最終的には45ポンド(約16kg)も減りました!正直に言うと、今でもランニングには抵抗しています。感情は明日まで先延ばしにしてもいいと理屈をつけています。でも私はそれをよく知っていて、今でもジョギングを続けています。

神の言葉を学ぶこととランニングの間に多くの類似点を見つけました。どの活動でも最も難しいのは始めることです。しかし一度始めると、両方を本当に楽しめます。そして終わったとき、やり遂げたことに満足しています。努力した分、私はより良くなっています。どの修行においても、私の感情は「正当に」一日だけ先延ばしにできる理由をいくつか示しています。しかし、一日を逃すと、次の日は先延ばしを正当化しやすくなります。定期的に行うことで力がつき、難しさが和らぎます。弟子は神の言葉を学びたいと願います。

イエスは言われました、「...もしあなたがたが私の言葉に従うなら(つまり日々続け続けるならば)、あなたたちはまさに私の弟子である」(ヨハネ8:31)。神の言葉を食べることは弟子の人生の優先事項でなければなりません。そうすれば「神の人が十分であり、すべての良い行いに備えられるように」(テモテ第二3:17)。あなたは常に「あなたがたの中にある希望について説明を求められるすべての人に対して、弁護の準備をしなければなりません...」(ペテロ第一3:15)

聖書の登場人物の経験は、あなたの教えの模範として記録されています(コリント人への第一の手紙10:11)。あなたは常に聖書の原則を発見し、それを自分の人生に適用しなければなりません(詩篇119:7,8)。

私は、私が下すべきすべての決断に対して、神の言葉には指針となる原則や直接的な命令があると確信しています。ですから、もし特定の状況で神の御心を知らないなら、それはおそらく私が神の言葉を知らないからでしょう。

誰かが重要な決断について私の助言を求めるとき、私の最初の質問はこうです:「御言葉を学んだことがありますか?神ご自身の言葉に耳を傾けましたか?」神を求める前に私の助言を求める人たちには驚かされます。私たちには、私たちと聖書の両方をよく知る敬虔な人々の助言が必要ですが、それは適用される聖書の原則と祈りの学習の後に続くべきです。

pp。39-41

出典:キース・フィリップス博士著『The Making of a Disciple』。フレミング・H・レヴェル社出版、1981年。ISBN 0-8007-1181-5。ロバート・E・コールマンによる序文。内容(勉強問題を除く)は本書から抜粋し、改訂は加えていない。

***ステップ6**: 個人的な祈りの願いを共有し、それぞれがお互いの願いを祈ります。*

改訂20261011